

豊中十六中スタンダード



豊中市立第十六中学校 学習指導部

学校教育目標

自ら学ぶ姿勢を持ち、豊かな心で前向きな行動力のある生徒の育成

研究主題

「自ら考え、学ぶ力」と「向上心を持って成長しあえるつながり(集団)」の育成

本校の現状と課題

学校全体で4人1組を基本とするグループ活動が定着しており、生徒は落ち着いて授業に取り組むことができる。一方で、不登校生徒や別室登校生徒の多さ、周囲との関わりが得意でない生徒が多いことが本校の課題であり、授業の中で生徒どうしのつながりをつくっていくことが生徒の支援や予防策のひとつになると考えている。

課題に解決に向けて

「わからないことをわからないと言える」、「わからないことをいつでも誰にでもきくことができる」、「自分の考えや発言を受け止めてもらえる」ことが生徒の安心感につながる。すべての生徒が安心して、いきいきと学ぶことができる学校づくりを目指し、本校では「学びを深める関係づくり」をテーマにして、授業や行事に学校全体で取り組みたいと考えている。

本年度の研究テーマ

「学びを深める関係づくり」

生徒につけたい3つの力 「きく力」・「表現する力」・「対話する力」

学校全体での取り組み

1. 授業デザインの共通理解
2. 教科会
3. 全教職員による授業公開・授業見学
4. 学期に1回の研究授業・研究協議
5. 学びを深める関係・環境づくり

授業デザイン

主体的・対話的で深い学びが生まれる授業

教師が丁寧にわかりやすく教え込む授業ではなく、生徒が「主体的・対話的に学ぶ授業をデザインする。

- ① 「なぜそうなるんだろう」、「どうすればできるんだろう」と生徒が自ら学びたくなる授業
- ② 対話を通じて、理解を深めたり、多様な見方や考え方ができるようになる授業

学びを深める関係づくり

- ① 個の学びが深まるように「ペア学習」や「グループ学習」を取り入れる。
- ② わからないことがあれば、いつでも周りにきくことができる体制づくりを行う。
(グループで机をつけるときは、筆箱や教科書などが学び合いの妨げにならない位置に置かせる。)
- ③ 「きく力」「表現する力」「対話する力」を指導する。
- ④ 「教師が教える」のではなく、「生徒に気付かせる」ことを心掛ける。
- ⑤ 生徒の発言や考えを取り上げて、生徒に考えさせる。
- ⑥ 学びが深まるように生徒をつなぐ。

「深い学び」が生まれるジャンプ課題の設定

ジャンプ課題とは、教科書のレベルを超え、グループで協働することで達成できる課題

- ・易しすぎる課題・難しすぎる課題では「学び合い」は生まれない。
- ・学習の苦手な生徒は、解答にたどり着けなくても活動の中で基礎・基本を習得できる。



授業の流れ

- ① 導入（ねらいの提示）
- ② 共有の課題（課題の基礎を復習できる問題）
- ③ ジャンプ課題（生徒が自ら考えたいくなるような教科書のレベルを超える課題の設定）
- ④ 今日学んだことの振り返り

生徒につけたい力

きく力

- ① 手を止める ② 体を向ける ③ 反応する

- わかったとき → 「へえ～」、「ああ」、「なるほど」、「わかりやすい」、「だからそうなるんか」 など
- 考えが同じとき → 「そうそう」、「わかるわかる」「考え方同じだ」 など
- わからないとき → 「どういうこと?」、「なんでそうなるの?」、「ここまではわかるけど・・・」

表現する力

- ① わかりやすい説明の仕方

知識や経験によるものを根拠に、自分の考えを論理的に説明する。

- 各教科の用語の使用 : あれ、それといった指示語はなるべく使わない。
- 順序 : 「まずは～」、「つぎに～」 など
- 比較 : 「～と同じように」、「～と比べて」 など
- 具体 : 「例えば～」 など
- 原因・結果 : 「～だから～になる」 など



- ② 相手に伝える表現の仕方

- 視覚による説明の補助

図・文・式などの伝えたい箇所をさして、注目させながら説明する。

- 声の大きさの使い分け

「ペアで話すとき」、「グループで話すとき」、「クラス全体で話すとき」で声の大きさを使い分ける。

- お天気キャスターの立ち位置

相手を見て話すこと、全体の場での発表時は黒板などが隠れないようにお天気キャスターの立ち位置で伝えたい人に体を向けて話す。

対話する力

他者の意見や考えを受け止めて、自分の考えを相手に伝える。

学びの深まりをめざしたICT活用

協働・共有・交流・発表

「ペア学習」「グループ学習」での主体的で対話的な学びの手段として、一人一台端末を活用する。

■ 協働編集機能を活用し、各自の端末からクラウド上の1つの作品をつくる。

→意見の反映やレイアウトの修正が容易なので、アイデアを出し合いながら進めることができる。

■ 作成・撮影した作品や資料をクラウド保存し全体で共有し、各自の端末で自由に閲覧する。

→共有された情報は時間と場所に制限されず、各自の興味関心に応じて自由に参照ができる。

■ デジタルツール（チャット・アンケート・ポジショニング等）により、短時間で全体的に意見交流する。

→得られたデータは、全体傾向を把握したり個別意見として参照したり、分析・加工することができる。

■ グループ内やクラス内で、デジタル作成した発表資料を効果的に活用して発表する。

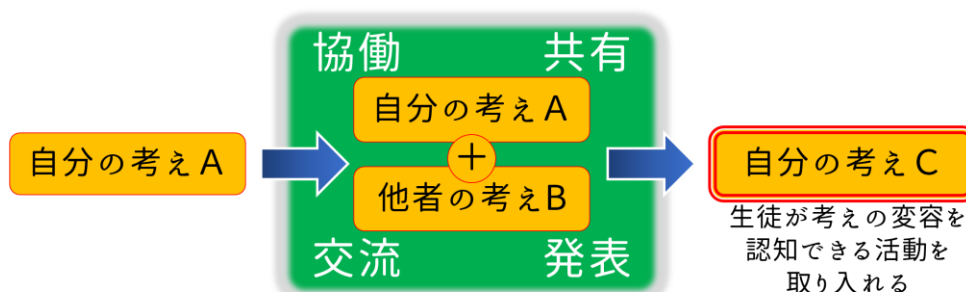
→視覚的・聴覚的な表現力を活用し、効果的なプレゼンテーションを実現できる。



学びの深まり

「ペア学習」「グループ学習」での一人一台端末の活用を通して、【学びを深めるポイント】を意識する。

■ 「自分の考え」が、一人一台端末を活用した活動を通して「他者の考え」に触れることにより、変容したり確認したりすることを認知することで、学びが深まる。



【学びの深まり】のイメージモデル

研究授業

研究授業の目的

全教職員が同じ授業を見学し、生徒の学ぶ様子から、生徒の学習支援方法を学び合い、自身の授業実践に活かす。

研究授業見学者の視点・注意点

- ① 授業者の発問など、授業の良し悪しだけを見たり、評価する場ではない。
授業を見学し、自身の授業にどのように活かすのかを学ぶ場である。
- ② 授業の中で「生徒の学びが深まった要因」「学びをさらに深める方法」を考察する。
- ③ 活動する生徒に近づき、様子、表情、話す内容、小さなつぶやきなど、生徒の背景も含めて観察・考察し、メモをとる。
- ④ 上からのぞきこまず、姿勢を低くして観察する。
- ⑤ 活動している生徒に話しかけたり、答えを教えることはしない。

研究授業について

- ① 研究授業の順番
国→社→数→理→英 音→美→技家→体 五教科 → 五教科 → 実技教科 の順
年2回行う研究授業のうち、その中の順番は年度当初に担当教科で相談する。
- ② 研究授業日の時程
1～5限 45分 + 6限 50分 ノークラブデー 昼終礼・日直清掃
- ③ 準備するもの
授業者 1. 授業デザイン A4 1枚
 2. 座席表
担当者 1. 研究授業の時程
 2. 研究授業見学者の視点・注意
 3. 研究授業グループ分け表
 4. コミュニケーションカード

研究協議

研究協議について

- ① 事前に分けられたグループで席に座る。(1グループ5～6人程度)
- ② グループ協議の司会者は各グループの学習指導部が行う。
- ③ グループ発表は各グループの司会者以外が行う。

司会の流れ

- ① 授業者、講師の紹介
- ② 授業者からの話(5分程度)
- ③ 研究協議の流れを確認
グループの発表者はまとめではなく、自分の考えを発表する。
- ④ グループ協議
- ⑤ グループ発表
- ⑥ 講師による授業の講評
- ⑦ 質疑応答
- ⑧ 学校長による講評
- ⑨ 閉会

研究協議をデザインするポイント

- 授業デザインと同じように、参加する教職員が、対話する中で、多様な見方や考え方を共有できるように研究協議をデザインする。
- 多様な見方や考え方を出すために、グループ協議の時間を十分にとる。
- 全体の様子を見て、グループ協議を短く切り上げてよい。
- グループ発表は、グループ内で出た意見のまとめではなく、発表者自身が思うこと、感じることを発表してもらう。
- 参加者全員が一度は発表する機会をつくる。発表1で2名、発表2で2名にするなど。

○年○組

授業場所

教科

単元名

本時の目標（つきたい力）

- .
- .
- .

1人1台タブレットを活用した学びを深める活動とポイント

<活動>
 (協働)・(共有)・(交流)・(発表)

<学びを深めるポイント>

- .
- .

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- .
- .
- .
- .

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (○分)		
展開 (○分)		
まとめ (○分)		

科 授業デザイン

授業者

1. 日 時：20 年 月 日（ ） 第 限

2. 学 級： 年 組

3. 場 所：

4. 単元計画

単元名	
第1次	
第2次	
第3次	
第4次	
第5次	

5. 単元目標：「 」

6. 本時のテーマ：「 」

7. 本時のねらい：「 」

8. 本時の流れ

導入	
基本の課題	① ②
ジャンプ課題	
振り返り	

「授業デザイン」 の原本は

【ファイルサーバー】の中に原本を保存してあります。

研究授業や公開授業の配布資料作成の際はファイルデータを自分の PC にコピーして、作成するようになしてください。

研究授業用 コミュニケーションカード

本年度の研究テーマ

「学びを深める関係づくり」 生徒につけたい3つの力 「きく力」・「表現する力」・「対話する力」

授業者 () 先生 20 年 月 日 ()

授業を見学して自身が学んだこと

質問や意見

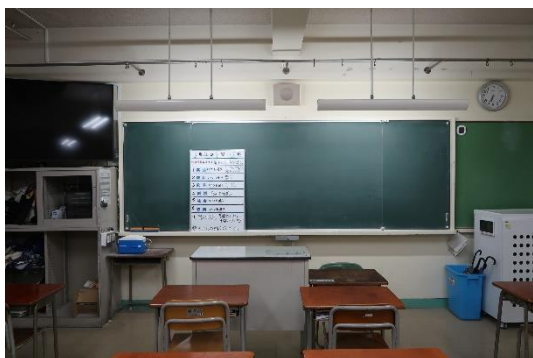
記入者 ()

学びを深める環境づくり

荒れた教室では、物を大切にする心や育ちにくく、落とし物が当たり前になる。そのような環境では落とし物や忘れ物を見ても関心がなくなり、他者意識が低くなる。また、整理整頓ができていないと、机をつけるグループ活動もスムーズに行うことができない。学習指導部では、生徒のつながりや生徒の学びを深めるために「学びに集中できる環境」と「学び合いが生まれる環境」を整えることが重要であると考えている。

学びに集中できる環境づくり

- ① 教卓側の黒板は授業に関するもの以外を書かない。貼らない。
(関係のない物が視界に入ると、集中力が途切れてしまうため。)
- ② 授業の連絡は大型のホワイトボードを活用する。
- ③ 通学かばんはロッカーに入れる。机の横には大きな荷物をかけない。



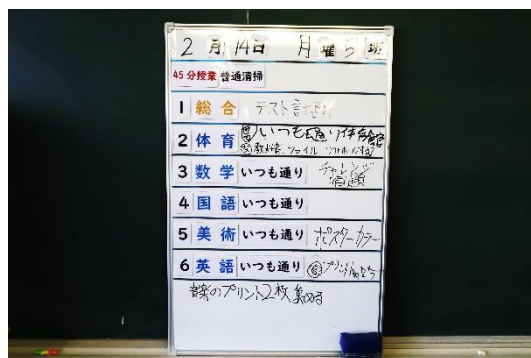
教室前方の黒板には連絡等を貼らない・書かない



机の横に大きな荷物をかけない・置かない



かばんは後ろのロッカーに入れる

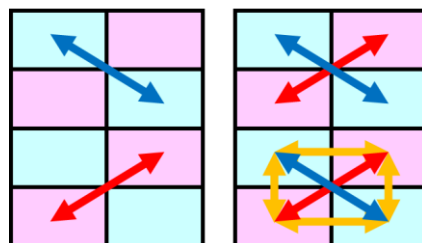


連絡はホワイトボードに書かせる

学び合いが生まれる環境づくり

① 座席配置は男女市松にする。

男子どうし、女子どうしの斜めの会話が交わり、
グループの会話に発展しやすい。



② 4人1組、もしくは3人1組のグループをつくる。

(活動に参加できない生徒がでるため、5人以上のグループは作らない。)

③ 机は隙間なくきちんとつける。※コロナ対策期間は下の図の配置で行う。

④ 筆箱などは学び合いの妨げにならない位置に置く。(可能であれば机に入れる。)

⑤ 教室にホワイトボードセット×9、タイマー、指し棒を常備する。

⑥ 学びを深めるために ICT 機器を活用する。

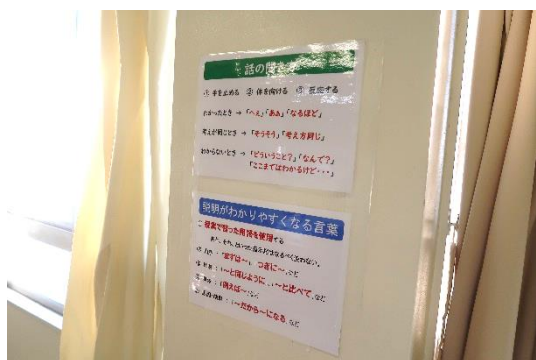
⑦ 教室の左右の柱に「話のきき方」「説明がわかりやすくなる言葉」を貼る。



4人での机のつけ方



コの字型



話の聞き方



学びを深めるアイテム

説明がわかりやすくなる言葉

